開会式で「選手宣誓」を務める予定だった2選手の“現在”に迫る

宣誓！
私たちは、引き続き鹿児島大会出場を目指します！

松本（まつもと） 和真（かずま）さん　（陸上競技／水戸高等特別支援学校3年）

大会ができなかったことが「とにかく悔しい」と嘆きながらも、こちらのリクエストに応え、今でも流暢に完璧な選手宣誓を披露してくれた。それほど練習したのだ。茨城大会では、100m、4×100mリレー、走幅跳に出場予定だった。小学生の頃から走るのが大好きだった松本さんは、現在、水戸高等特別支援学校陸上部で汗を流す。「練習では歩幅を意識している」という言葉どおり、そのフォームは大きなストライドが際立つ。3月に卒業すれば、就職し社会人となる。大会も少なくなるので、モチベーションを保つのが難しい。時間を見つけてどれだけ陸上に打ち込めるかが課題で、「仕事と練習の両立ができるようにしたい」と話す。

とにかく、陸上が大好きな松本さん。「鹿児島大会にもチャレンジしていきたい」と意気込むと、またグランドへと走り出していった。

五十嵐（いがらし） 幸恵（ゆきえ）さん　（バレーボール）

「中止を聞いたときは、とにかくがっかりして落ち込みました。泣くメンバーもいたけど、キャプテンとして何もできなかった」。茨城チームの代表として選手宣誓をすることも「経験のないことだからぜひやってみたかった」と素直に胸の内を明かしてくれた。茨城開催ということで3年前から招集、準備してきたチームは幻となった。高校生から40代までと年齢層が幅広く、キャプテンとしてチームをまとめる苦労があったが、メンバー同士、とてもバレーボールを楽しめる環境だったという。これまで、働きながら、また、現在小学生のお子さんを育てながら、週に1度の練習を充実させてきた。「今年で終わりのつもりだったけど、このような結果となり、このままでは終われない。次の鹿児島を目指します！」と1年後の大会に意欲を示す。既に気持ちは切り替わり、水戸聾学校の部員たちとともに、また楽しく練習に励む生活をスタートさせていた。

チームメンバーの思いを汲み、12月には県内のバレーボールチームを集め“ミニ障スポ大会”を開いた。「監督らの計らいで、このチームで試合ができるように試合を組んでくれた」と嬉しそうに語っていた。

2020 キバイヤンセ！茨城県選手団　～鹿児島大会に向けて～

次回、2020年の全国障害者スポーツ大会の舞台は、茨城県から西へ約1000km離れ、桜島や明治維新の偉人に象徴される情熱的な南国、鹿児島県です。茨城大会は残念ながら開催中止となりましたが、本県選手にはその悲しみや悔しさをバネにし、引き続き鹿児島大会への出場を目指すなど、今後もいきいきと活躍されることを期待しています。

マスコットキャラクター
ぐりぶー